

經濟ハ年々改善シ得ル餘地ヲ有スルテフ多大ノ差異アルヲ認ムヘシ之レ前出本道農家經濟ヲ以テ各府縣ニ直接照合ノ上調査セル左記農家經濟表ニ比較スルトキハ自カラ明カナルヘシ

府縣別	經營面積	農業收入	副業及雜收入	計	種子代	肥料代	傭入勞銀	傭入料	農具費	田畑修整費	家畜養育費	消耗品	損傷及清償費	計	生計費	合計	差引額不足
靛島縣	18,500	400,750	114,000	514,750	5,000	36,670	26,670	3,000	12,200	2,000	2,800	1,500	4,200	93,740	415,800	509,540	+ 5,310
秋田縣	20,000	260,000	64,000	324,000	2,000	5,000	2,300	1,200	2,000	1,000	1,300	1,200	2,000	18,500	299,000	317,500	+ 6,500
栃木縣	27,000	971,000	25,000	996,000	5,000	333,000	55,000	33,000	10,000	20,300	3,000	2,000	15,000	476,000	549,000	1,025,000	+ 29,000
埼玉縣	21,000	288,278	107,540	451,512	8,500	15,000	2,000	7,000	6,500	2,000	3,500	2,500	1,500	43,500	386,758	430,258	+ 21,254
山梨縣	9,000	217,200	290,000	507,200	15,220	80,000	25,000	5,000	5,000	2,500	1,000	2,000	1,500	140,220	365,000	505,820	+ 1,380
奈良縣	8,000	381,000	-	381,000	3,000	26,000	2,500	3,500	2,000	1,000	5,000	2,000	1,000	46,000	365,100	381,100	+ 29,900
靜岡縣	9,000	480,000	42,000	492,000	6,500	65,000	3,000	7,000	5,000	3,000	7,000	5,000	5,100	126,600	331,000	457,600	+ 34,400
靛島縣	8,000	104,600	183,730	288,330	3,000	3,000	15,000	2,500	2,400	2,000	4,000	2,000	1,500	21,300	284,210	306,110	+ 17,780
大分縣	8,000	280,500	44,500	325,000	6,300	72,500	15,000	16,000	8,300	5,000	8,000	4,500	7,000	142,400	165,400	307,800	+ 17,200

備考 本表農場支出ニ合ム項目ハ前掲本道調査ニ於ケルト同様ナリトス
秋田縣ハ小作農ニシテ大正元年米價騰貴セル時ノ調査ナリ埼玉縣ハ自作兼小作農ニシテ經營面積ハ中等田畑五反歩ハ自作其他ハ小作ナリ

一、本道農家經濟上進策

前節掲出ノ本道農家經濟ノ現況ヲ見ルニ本道農家特ニ小農ニアリテハ其經濟決シテ祐福ト稱スヘカラサルモノアリ茲ニ於テ乎之レカ上進ノ策ヲ講スルノ緊要ナルヲ認ムルモノナリ而シテ上進ノ策ニ積極消極ノ二方策アリ前者ハ經營スル農業收入ノ増額ヲ圖ルコトニシテ後者ハ農家ノ生計費ヲシテ合理的の支出タラシムルニ在リ積極の方策ハ本卷農業經營調査ニ於テ論究セシヲ以テ本調査ニハ農家經濟上進策トシテ主トシテ消極の方策ニ屬スルモノヲ掲クヘシ

(一) 本道農家ノ食糧

(1) 本道農家食糧ノ現況

本道農家ノ食糧ハ其種類地方ニヨリテ異ナルモ本位トスル食糧ニ大凡五種アルモノ、如シ稗麥、玉蜀黍、稻黍、米及馬鈴薯之ナリ即チ稗麥ヲ米、玉蜀黍、蕎麥其他ノ雜穀ト混炊シ食糧トスル主ナル地方ハ札幌、空知、上川、網走、各支廳管内ニシ

テ玉蜀黍ニ他ノ雜穀ヲ混炊シ食糧トスル地方ハ後志、室蘭、檜山各支廳管内ナリ稻黍ヲ主トスル地方ハ河西、釧路各支廳内ニシテ米ヲ主食スルモノハ函館、空知、上川、札幌、宗谷各支廳管内ナリ又一般ニ新開地農家ハ稻黍蕎麥等ノ新墾地作物ヲ利用シ舊開地ハ麥類及米穀ヲ主食スルノ傾向アリ馬鈴薯ハ漁村附近ノ農村ニ盛シニ用ヒラレ地方ニヨリテハ南瓜收穫後一二ヶ月間之ヲ常食トスルトコロアリ稗ハ主トシテ浦河、檜山各支廳管内ニ常食トセラル次ニ軌近水田ノ興起ト共ニ水田地方ノ農家ハ米ヲ消費スルコト漸ク昌ナルニ至リ其他舊開地ニ於テモ米食ノ風倍々盛ナラントシツ、アリ

(2) 本道ニ於テハ雜穀食ノ有利ナル事

本道農家ノ食糧トシテ雜穀食ノ風ヲ助長シ之レカ利用ヲ圖ルコトハ甚タ有利ノ事ニ屬セリ其理由左ノ如シ

(1) 雜穀ハ廉價ニシテ比較的滋養ニ富ム食糧ナルコト

廉價ニシテ滋養ニ富ム食糧ノ種類選擇ヲ行フコトハ農家經濟上進ニ關スル要務ナリ而シテ其種類何ゾ限ランヤ而モ從來邦人米穀ヲ以テ唯一優良食糧ト認ムルノ風アリ此風亦近時本道農村ニ滲入シ米食ノ風漸ク盛ナラントスル傾勢アリ然ルニ麥其他各種雜穀ノ滋養ニ豊カニシテ消化力ニ富ミ其市價モ亦比較的低廉ナルハ別表ニ示ス如クニシテ雜穀中麥類、玉蜀黍、黍稗ノ如キハ其所含營養分及消化率等皆佳良ニシテ市價低廉ナルヲ以テ其營養價值ノ大ナルヲ知ルヘシ今若シ農家食糧ヲ米穀ノミニ撰フトキハ別表ニ示スカ如ク一家五口ニシテ約百圓餘ヲ要スルニ不拘黍麥玉蜀黍ノ混食ヲ行フニ於テハ僅カニ七十圓餘ヲ要シ又米麥混食ノ場合ニ於テハ約八十二圓餘米黍混食ノ場合ニハ約七十圓餘ヲ要スルニ過キス豈其差額大ナラストセンヤ茲ニ於テカ爾今農家ハ米食ノミ走ルノ風ヲ戒シメ雜穀利用ノ途ヲモ講セサルヘカラルナリ左ニ各種食糧ノ所含營養成分表及消化率比較表並ニ各種食糧品一人一日所要價格表及一家庭食糧費表ヲ掲クヘシ

食糧作物營養成分表

品名	水分	蛋白質	脂肪	油	可溶性糖	粗纖維	雜質	灰分
大 麥(精白)	12.16	8.59	1.81	73.58	2.05	1.81	1.81	
小 麥(精白)	14.52	10.52	0.88	70.75	1.40	1.38	1.38	
粟	12.48	11.49	1.66	72.44	1.10	0.83	0.83	
糯 米	13.46	13.32	1.82	67.57	1.85	1.98	1.98	
黍	13.13	13.90	2.72	68.66	1.16	1.43	1.43	
蕎 麥	11.76	10.74	2.44	71.71	1.46	1.79	1.79	
玉蜀黍	15.14	10.09	3.42	68.63	1.17	1.55	1.55	
馬鈴薯	12.86	9.45	1.96	74.24	0.71	0.78	0.78	

品名	水分	蛋白質	脂肪	油	可溶性無氮素	粗纖維	灰分
富察粟(精白)	16.51	4.39	0.20	77.30	1.32	0.39	
富察粟(精白)	15.05	13.96	1.37	67.77	1.08	0.77	
富察粟(精白)	12.43	1.51	2.61	68.62	0.82	0.98	
富察粟(精白)	11.13	12.03	0.95	74.99	0.49	0.41	
大豆	9.05	37.98	10.55	26.45	5.46	4.51	
大豆	14.57	20.96	0.73	55.08	5.59	3.07	
大豆	14.00	18.49	1.78	55.83	5.89	4.01	

消化率比較表 (東北帝國大學農科大學試驗成績)

種類	全有機物	蛋白質	脂肪	油	炭水化合物(可溶性無氮素除外)
大麦(製米)	91.10	75.47	31.10	96.09	
玉蜀黍(精白)	93.60	79.08	68.04	96.90	
粟(精白)	94.68	84.39	76.08	97.40	
(同)	94.10	87.47	37.76	98.43	
(同)	96.74	89.76	75.16	99.44	

各種食糧一日一人所要價額表 (大正元年札幌區ニ於ケル調査)

種類	類	精白百六十粒ノ市價	精白一石ノ市價	精白一升ノ重量	摘要
府北	米	0.74	18,600	400	本表精白一升ノ重量ハ凡テ中等品ニツキテノ實際調査ニ基キ
縣道	米	0.63	14,500	370	
海	米	0.59	13,500	370	
鮮	米	0.56	13,000	370	
博	米	0.49	12,500	400	
サ	米	0.48	12,000	400	
イ	米	0.48	12,000	400	
ラ	米	0.42	9,425	360	
探	米	0.47	10,875	370	

種類	品名	水分	蛋白質	脂肪	油	可溶性無氮素	粗纖維	灰分
玉蜀黍	0.35	6.500	300	52,925	1.32	0.39		
燕麥	0.48	0.000	300	14,500	1.08	0.77		
燕麥	0.56	1.750	320	21,170	0.82	0.98		
燕麥	0.48	9.600	330	26,463	0.49	0.41		
燕麥	0.40	8,200	330	26,463	5.46	4.51		
燕麥	0.45	8,500	300	27,55	5.59	3.07		

備考 一人一日所要量ハ假リニ各種雜穀其其滋効同一ト見做シ各種共皆中等米五合ノ重量即チ百六十粒ヲ要スルモノト想定シタリ

一家族食糧費表

一戸五人家族米食糧費表 (第一例)

種類	日	日	日	一人一日所要量	一人一日所要量	一人一日所要量	一人一日所要量	一人一日所要量	一人一日所要量	一人一日所要量	一人一日所要量	備考
男	11	人	730	5.0	3,850	14,500	9,425	11,963	43,665	52,925	一人平均	一石三斗八升
女	11	人	365	4.0	1,460	14,500	9,425	4,785	17,465	21,170	一人平均	一石三斗八升
子	11	人	730	2.5	1,825	14,500	9,425	5,982	22,334	26,463	一人平均	一石三斗八升
計	5	人	1,825	18.0	6,935	14,500	27.55	22,730	82,965	100,558	一人平均	一石三斗八升

備考 穀物價格ハ調査ノ當時實數ニ據ル白米ハ北海道産ヲ用ニルモノトセリ以下準之

同上米麥混合食糧費表 (第二例)

種類	日	日	日	一人一日所要量	一人一日所要量	一人一日所要量	一人一日所要量	一人一日所要量	一人一日所要量	一人一日所要量	一人一日所要量	備考
男	11	人	730	2.50	1,825.0	14,500	9,425	11,963	43,665	52,925	一人平均	一石三斗八升
女	11	人	365	2.00	790.0	14,500	9,425	4,785	17,465	21,170	一人平均	一石三斗八升
子	11	人	730	1.25	812.5	14,500	9,425	5,982	22,334	26,463	一人平均	一石三斗八升
計	5	人	1,825	95.00	3,468.0	14,500	27.55	22,730	82,965	100,558	一人平均	一石三斗八升

同上米麥混合食糧費表 (第三例)

種	日	日	數	一人一日所要量		一ヶ月所要總量		單	價	一日消費	一ヶ月消費	備	考
				白米	精麥	白米	精麥						
男	一	人	730	2.50	2.50	1.8250	1.8250	14,500	9,600	12,050	43,983	一人平均十六圓七十一錢三厘 二當ル	
女	一	人	365	2.00	2.00	7300	7300	14,500	9,600	4,820	17,593		
子	二	人	730	1.25	1.25	8125	8125	14,500	9,600	6,025	21,991		
計	五	人	1,825	95.00	95.00	3,4680	3,4680	—	9,600	22,895	83,567		

同上黍麥玉蜀黍混合食糧費表 (第四例)

種	日	日	數	一人一日所要量		一ヶ月所要總量		單	價	一日消費	一ヶ月消費	備	考
				精麥	玉蜀黍	精麥	玉蜀黍						
男	一	人	730	2.0	2.0	1,4600	1,4600	9,600	9,600	9,425	6,500	一人平均十 四圓二錢三 分	
女	一	人	365	1.5	1.5	5,475	5,475	9,600	9,600	9,425	6,500		
子	二	人	730	1.0	1.0	7300	7300	9,600	9,600	9,425	6,500		
計	五	人	1,825	7.5	7.5	2,7375	2,7375	9,600	9,600	9,425	6,500		

(ロ) 本道ノ水田作ハ局限セラル、コト

本道水田ノ耕作區域ハ氣象ノ關係上局限セラレツ、アルヲ以テ總テノ農家カ之ヲ生産スル能ハス米作地以外ノ地ニアリテ米食ヲナサント欲セハ自然雜穀ヲ賣リテ高價ナル米穀ノ購入ヲナサ、ルヘカラス其不利亦多言ヲ要セサルコト

(3) 食用トシテ雜穀ノ利用法

農家食糧トシテ雜穀ヲ利用セント欲セハ須ラク其原料ヲ適當ニ加工シ食味ヲ進メ消化力ヲ増スノ策ヲ講セサルヘカラス今本道雜穀加工法ノ主要ナルモノヲ左ニ掲クヘシ

挽割麥

大麥裸麥小麥等ノ精穀ヲ米ト混炊スルニハ二度ノ煮沸ヲ要シ且ツ養分ノ損失アルニ反シ若シ挽割或ハ平麥トナストキハ此ノ欠點ヲ除キ得ルノミナラス其消化率ヲ進ムルヲ以テ重用スヘキ加工法ナリトス
製法ハ乾燥充分ナル麥類ヲ原料トシ石臼或ハ挽割器ニ入レ破碎スヘシ而シテ挽割產量ハ原料ニヨリ一定セサルモ普通原料一石ヨリ一石一斗以上ヲ得ヘシ

平麥

平麥ハ普通大麥裸麥ノ精白セルモノヲ壓扁シテ製シタルモノニシテ從來櫻麥其他ノ名稱ヲ以テ販賣セラル、モノ、如キ

之レナリ挽割ト均シキ利益ヲ有スルノ外其味ノ美ナル點ニ於テ更ニ重要ノ加工法ナリトス
製法ハ精麥ヲ水ニテ充分洗ヒ之レヲ箆又ハ篩ニ堆積シ其儘放置スルコト凡ソ半日ノ後之レヲ壓扁器ニ掛ケテ壓扁シ後充分乾燥スヘシ又近來特許機械ヲ用ヒテ麥ヲ乾燥シ儘潰スルノ法アリ乾燥ノ勞費少ク且ツ貯藏久シキニ堪フル利益アリ

壓搾小麥

小麥ハ粘力强クシテ質硬ク精白セルモノヲ其儘食用トスルトキハ味不良ニシテ食用ニ適當ナラス茲ニ於テ從來平麥ノ加工ハ獨リ大麥裸麥ニ行ハレテ殆ント小麥ニ行ハレサルカ如シ元來小麥ハ滋効高クシテ價格比較的低廉ナルヲ以テ粉末トシテノ外ニ他ニ適良ノ加工法ヲ必要トス然ルニ小麥モ亦前記壓扁器ニ掛ケ平小麥ニ製スルトキハ直チニ煮食シテ味頗ル佳ニシテ消化率モ大ニ進ミ成分含量モ多ク營養率高キ好箇食糧トナルモノニシテ食糧加工法中最新ニシテ珍重スヘキ方法ナリト云フヘシ其製法ハ前記裸麥ト略同様ナルヲ以テ茲ニ省略スヘシ此平小麥ノ製品ハ原料ニ對シ五割ノ増額ヲナスモノニシテ其重量一升略二百目アリ故ニ米ニ比シテ七八割増シノ食用量ヲ要スルモノトナルナリ

人造米

人造米ハ近時世上ニ喧傳セラレ特許ヲ得タルモノニ二三アリ然レトモ其要ハ玉蜀黍ヲ精白破碎シテ一定ノ粒大トナシタルモノニシテ農民間ニ兼ネテヨリ行ハル、トコロノモノニ過キ玉蜀黍ハ價格低廉ナルノミナラス味モ稍可ニシテ滋効モ亦比較的大ナルヲ以テ其加工法ノ研究ハ甚タ緊要ノコトニ屬セリ人造米ノ如キ其味稍々可ナルヲ以テ重視スヘキ加工物ナリ其製法ヲ示セハ左ノ如シ

原料玉蜀黍ヲ湯ニ浸漬スルコト約一分位ニテ取上クルガ又ハ稀薄ナルアルカリ液ニ少時浸漬セル後取上ケ水ニテ洗ヒ少シク水氣ヲ去リシ後精白ヲ行フヘシ即チ白ニテ搗クコト三十分内外ニシテ第一回ノ攪分ヲ行ヒ更ニ搗白スルコト三十分内外ニシテ第二回ノ攪分ヲ行フ(第二回目ノ搗白中生シタル粉ハ攪分前ニ篩別シ置クヘシ)トキハ粘白終ル茲ニ於テ白又ハ石臼ヲ用ヒテ一定ノ大サニ碎キ粉末其他ヲ篩別スヘシ之即チ人造米ナリ

製出歩合ハ石臼ニテ挽碎ケル場合ハ玉蜀黍一升ヨリ製品約八合内外、粉末二合内外、糠二合内外ヲ得ヘク又白ニテ搗碎キタルモノハ同製品約六合五勺内外粉末二合五勺内外、糠二合内外ヲ得ヘシ

富錦(馬鈴薯米)

富錦即ハチ馬鈴薯米ハ食糧トシテ馬鈴薯加工法ノ主要ナルモノナリ馬鈴薯其儘ノ煮食ニ比シテ貯藏ニ堪ヘ且ツ食味ノ佳良ナル點ニ於テ大ニ勝レリ其法左ノ如シ

馬鈴薯ヲ能ク洗滌シテ之ヲ富錦製造器ニ入レサイノ目形ニ切り徐カニ攪拌シテ能ク澱粉汁ヲ洗ヒ出シ後五升ノ水ニ酒石酸一匁ノ割ニ溶解シタル水中ニ一時間浸漬シテ馬鈴薯中ニ混在スル澱類ヲ扱キ後之ヲ水ヨリ上ケ清水ニテ洗ヒ尙水五升ニ重

炭酸曹達一々ノ割ニ製シタル水溶液ニ一時間浸シ後之ヲ引上ケ冷水ニテ洗滌シ後之ヲ煮沸スヘシ煮沸ノ程度ハ剛軟其度ヲ失セサル範圍ニ於テ糊化セシムルニアリ之ヲ煮沸スルニハ豫メ大鍋中ニ湯ヲ煮沸セシメ置キ馬鈴薯ヲ釜中ニ入レ其中ニ投シテ煮ルヲ便利トス煮タルモノヲ尙清水ニ浸シ能ク洗ヒタル後之ヲ篩ニ擴ケ乾燥スヘシ之ヲ富錦ト稱ス生薯一石(五十貫)ヨリ富錦五斗(七貫五百匁)澱粉三四貫ヲ得故ニ生薯一石ノ代價ハ其副産物タル澱粉ヲ以テ償フヲ得ルモノナリ

燕麥ノ脱皮

燕麥ニ加工スルハ最モ必要ノコトナリ由來燕麥ハ脱皮ニ困難ナリト稱セラル、モ其製法左ノ如シ
有皮燕麥ヲ晴天ノ日ニ藎ニ擴ケ充分ニ乾燥シテ粒實ヲ硬固ニシ後木製ノ臼ニ入レ乾燥燕麥一斗ニ水二合位ノ割合ニテ外皮ノ濕ル位ニ水ヲ注入シ徐々ニ搗キテ外皮ヲ脱スヘシ脱皮ハ只一回ニテハ面倒故ニ其半以上脱皮シタルトキハ之ヲ臼ヨリ取出シ其レヨリ再ヒ藎ニ擴ケテ充分乾カシ通ホシテ以テ後策ヲ以テ表皮ト實ヲ通ホシ分クヘシ未タ脱皮セサルモノハ前ノ如ク注水シ更ニ臼ニ入レテ輕ク搗キテ皮ヲ能ク去ルヘシ此通シ分ケタル粒ハ水ニテ洗ヒ天日ニテ乾燥貯藏スヘシ裸燕麥ノ場合モ之ト略同様ニシテ只臼ニテ搗クコト一回ニテ精白スルニ至ル要スルニ裸燕麥ノ精白法ハ裸麥ノソレト殆ント同様ナリ有皮燕麥ハ大麥ヨリ脱皮稍困難ナルノ點アルノミニシテ畢竟粒實乾燥不良ナルトキハ之ヲ搗クニ際シ粒實ヲ扁平ニシ脱皮不充分ナリ又注水過良ナルカ或ハ注水後長時間ヲ經過スレハ粒實軟カニ過キ扁平ニ潰シ搗減ヲ多ク生スルヲ以テ之等ノ點ニ就キテ少シク實驗ヲ積ムトキハ大麥裸麥ノ精白法ト其作業ノ上ニ大差ナキニ至ルヘシ

- (4) 食糧上ヨリ見タル農業經營上ノ注意
- (1) 所要食糧ハ可成自給スルコト

農業組織ハ地方狀態交通便否等ニヨリ異ナリ交通至便ニシテ常ニ食糧ヲ廉價ニ購入シ得ルノミナラス特種有利ノ作物ヲ有スル地方ニアリテハ販賣作物ニ重ヲ置キ食糧ノ全部ヲ購入スルノ方針ヲ執ルノ勝レル場合之ナキニアラサルナリ而モ此種經濟ノ狀況ニアル地方ハ全道中稀レニ見ルトコロニシテ本道全般ヨリ推ストキハ農家ノ所要食糧ハ成ル可ク自カラ生産スル組織ヲ採用スルコト肝要ナルヲ見ルナリ然ルニ本道農家深ク茲ニ意ヲ致サ、ルハ遺憾ナリト云フヘシ茲ニ於テカ爾今農家ハ其家族ノ員數ニ應ジ一ヶ年ノ所要數量ヲ計リ之レカ收得ノタメニ必要ナル耕作面積ヲ算出配當ヲナスノ方針ヲ執ラサルヘカラサルナリ今參考ノタメ前掲ノ家族ノ一ヶ年所要額ニ對シ配當シ耕作スヘキ反別表ヲ左ニ掲グヘシ

一ヶ年食糧作物耕作面積表

品	第一例		第二例		第三例		第四例		備
	一ヶ年所要數量	必要耕作面積	一ヶ年所要數量	必要耕作面積	一ヶ年所要數量	必要耕作面積	一ヶ年所要數量	必要耕作面積	
粟	3,408	4.9	—	—	2,738	3.9	2,738	3.9	一反歩收得ノ標準入斗
黍	—	—	—	—	2,738	2.9	2,738	2.9	五斗粟一石六斗黍ニ一
稷	—	—	—	—	2,738	2.2	2,738	2.2	石一斗ニ粟定多シ之ニ
米	3,468	2.5	3,468	2.5	—	—	—	—	2.2 割白歩合ヲ計算シテ其必要耕作面積ヲ算出キ
合計	6,936	7.4	6,936	5.2	8,214	9.0	—	—	—

(ロ) 若干ノ備荒的食糧作物ヲ栽培スルコト

本道ニハ凡ソ拾年一回ノ凶作アリ又ハ新開地高臺地或ハ根室、釧路支廳管内ノ如キ氣候適良ナラサル地方アレハ特ニ凶作ニ抵抗力强キ食糧作物ヲ各種取り合セ毎戸適當反別ヲ耕作スルコト必要ナリ而シテ其種類ハ前節所載ノ各食糧作物ノ品種中ニ付キテ成熟期極早ナルカ(例ヘハ水稻ノ黑毛、黑粳、魁ノ如キ裸麥ノチンコ、玉蜀黍ノゴルデンバンナム、大豆ノ吉岡小豆ノ夏小豆ノ如キ)品質劣レルモ寒氣ニ堪フル性質ヲ有スルカ(夏蕎麥、茶豆、稗、燕麥、裸燕麥及ライ麥ノ如キ)又病虫害及水害ニ抵抗力强キモノ(馬鈴薯ノ疫知ラス、大豆ノ冷水ノ如キ)ヲ撰選シ之ヲ混栽スヘシ

(5) 農家食糧改良トシテ畜産獎勵

農家食糧改良ノ一策トシテ農家ニ畜産獎勵ヲナシ牛豚羊鶏等ノ適當數量ヲ飼育セシメ一面ニハ其販賣ニヨリ副業收入ヲ擧ゲ且農場ニ要スル肥料ノ潤澤ナル給源ヲ得ルト同時ニ一面ニハ之レカ乳肉ヲ自家食糧ニ供セシムルトキハ食糧改良ノ効果甚タ大ナルヲ認ムルモノナリ

(6) 食糧改良觀念普及ノ策

以上項ヲ分チテ陳述セル農家食糧ニ對スル方針ヲ周ネク農村ニ普及セシメントスルニハ農家ノ子女ヲ會同セル料理講習會ヲ開催シ簡易ニシテ經濟的ナル料理法ヲ講習セシムルコトノ如キ一般農家ヲ集メ食料改良講習會ヲ開催シ主食糧ノ加工法並ヒニ畜産製造ノ實地指導ヲナスコトノ如キ又農村青年會ニ於テ時々試食會ヲ開催シテ食糧加工調理ノ研究ニ資セシムルコトノ如キ又麥食獎勵會ヲ設立シテ麥食ノ獎勵ヲナスコトノ如キハ其ニ皆必要ノ事項ナリトス又北海道應ハ常ニ簡易ナル印刷物ヲ配附シ食糧改良ニ對スル適當ノ指導ヲ行フコトノ如キハ最モ緊切ナル食糧改良觀念普及ノ策ナリト認ム

(二) 本道農家家屋

(1) 現況

本道現在ニ於ケル農家ノ家屋ハ經濟的方面ヨリモ精神的方面ヨリモ又衛生的方面ヨリ見ルモ其改良ヲ緊要トスルナリ抑モ本道ノ農家々屋ノ構造ハ固ヨリ一樣ナラス新開地ニ於ケル移住當時ノモノニ二種アリ一ハ掘立小屋ニシテ(地ヲ掘リ丸木ヲ建テ、柱トセルモノニシテ七坪半乃至十二坪ノモノ多シ)他ハ拜み小屋ト稱スルモノナリ(中央及兩端ニハ一本苑ノ柱

ヲ建テ上梁ヲ渡シ左右ノ地上ヨリ其梁ニ急勾配ニ丸木ヲ立テ掛ケ之ニ横ニ丸木ヲ結ヒ付ケテ造ル。共ニ粗雜ナル建築ナリ
移住時代ヲ經過シ農村ノ基礎漸ク成リタル地方ニアリテハ農屋モ大ニ進歩シテ往々見ルヘキモノアリト雖尙改良ノ餘地甚
々大ナルヲ認ム今ヤ本道農家ハ農屋改良ノ時期ニ達着シツ、アリソハ開拓其緒ニツキ多少資金ノ餘裕ヲ生シタルモノアル
コト及天然給源ノ薪炭材漸ク欠乏シテ高價トナリシタメニ其保温ノ關係上家屋改造ノ必要アルコト之ナリ

農家改良ニツキ農家ノ注意スヘキ事項ハ左ノ如シ

(1) 位置

農屋設定ノ位置ハ不得已場合ヲ除キ水害山崩ノ憂ナク濕地ヲ避ケ高燥ニシテ飲料水ノ便アル地ヲ相スヘク特ニ高臺農業ニ
多ク見ル溪澤ノ凹處ヲ撰ヒ家屋ヲ建造スルカ如キ水害ノ患アルヲ以テ斟酌スルヲ要ス

(2) 改良スヘキ要點

方向ハ事情ニシテ許サハ普通東南ニ向フヲ可トシ丘陵及林ハ之ヲ裏ニ負フヘシ何レノ場合ニアリテモ道路ニ近接シテ其端
ヲ直ニ間口トスルハ不可ナリ又東西ニ走ル道路ニアリテハ北側ノ家屋ハ道路ニ向ツテ或距離ヲ以テ南面スヘク南側ノ家屋
ハ東ニ向ツテ道路ヲ横ニスヘシ

(3) 間取

農屋建築上最モ苦心工夫ヲ要スルハ其間取ナリトス間取ヲ選フニ當リ間口ト奥行ヲ定ムルコト必要ナリ間口奥行ヲ等シク
セル正方形ハ日光ニ當ル面積少クシテ不可ナリ然レトモ扁平ニ過クレハ耐久力薄弱ナルヲ以テ之又不可ナリ乃チ奥行ヨリ
間口ノ大ナル長方形ヲ選フヘシ

(4) 其他改良スヘキ點

農家ノ住宅ニツキ其他改良ヲ要スル點ハ二三ニシテ止マラスト雖其主要ナルモノ、ミヲ掲ケレハ先ツ窓ノ設備之ナリ本道
農家ニ於テハ窓ヲ具フルコト甚タ少クシテ爲メニ陽光ノ室内ニ入ルモノ少ク暖ヲ取ルニ不便ヲ極ムルノミナラス衛生上ニ
モ亦不良ナリ茲ニ於テカ宜シク硝子張窓ヲ具フルコトニ改メ且ツ其窓數ヲ増加スルコト肝要ナリ次ニ壁、床、天井ハ從來
餘リニ粗雜ニ失シ之又保温上ノ不便大ニシテ引イテ薪炭ノ不經濟ヲ來シツ、アルハ患フヘキ現象ナルヲ以テ宜シク之レカ
改良ヲ期圖セサルヘカラス

(5) 本道ニ適切ナル農家ノ家屋設計

農舍ヲ設計スルニ當リ各支應ヨリ調査資料ヲ求メ主トシテ之レニ依リ考案シタルモ建築費ニツキテハ各支應共甚シク相違
アリシヲ以テ空知、上川、函館地方ニ於ケル代表村ノ狀況ヲ參酌シテ以テ費用ヲ見積リタリ

各農舍共居宅ハ壁付、天井張リト成シタリ第一ヨリ第三ニ至ル設計ノ建築費低廉ナルハ大工、左官、及需品中自家ニ於テ
生産供給シ能ハサルモノノ絶對的支出ノミヲ計算シ自家ノ勞力ハ計算セサリシヲ以テナリ第四及第五ノ設計ハ建築ヲ稍丁
寧ナラシムカ爲メニ坪二人七分ノ大工ヲ見積リ材木及壁ノ單價ヲ増額セリ又農舍建築費ハ總テ外圍ノミニシテ若シ之レニ
疊建具等ノ設備ヲナス時ハ居宅一坪ニ付普通一圓五十錢ヨリ三圓ヲ要スルモノトス本設計ニ於テ厠ノ掲記セラレサルハ厠
ハ凡テ納屋ニ附屬スルモノト豫定セルヲ以テナリ
建築材料勞力費等ノ細目ヲ詳記スルハ却テ繁雜ニ流ル、恐アルヲ以テ計算ノ結果ノミヲ記載スヘシ

第一設計

本家ノ坪數拾壹坪

建築費壹坪ニ付金七圓五拾錢 小計金八拾貳圓五拾錢

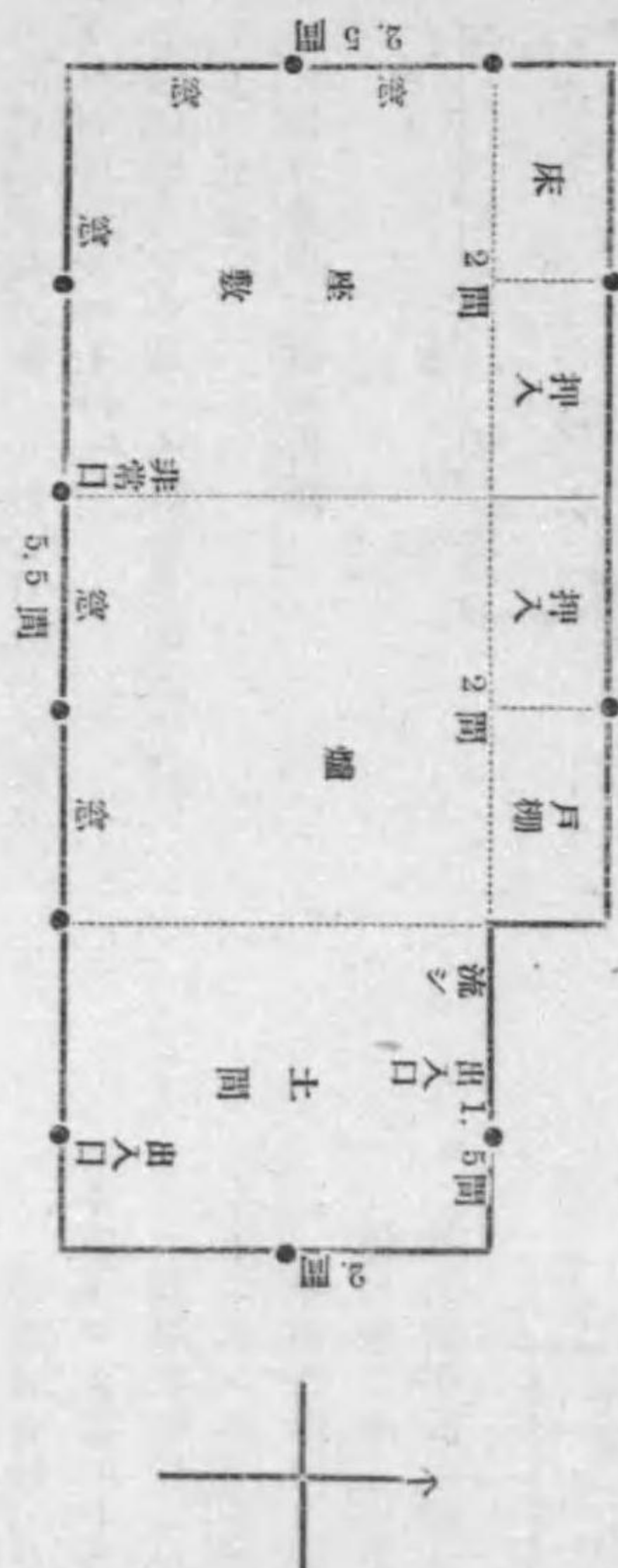
本家附屬下ロシ坪數貳坪

建築費壹坪ニ付金五圓 小計金拾圓

總坪數拾三坪

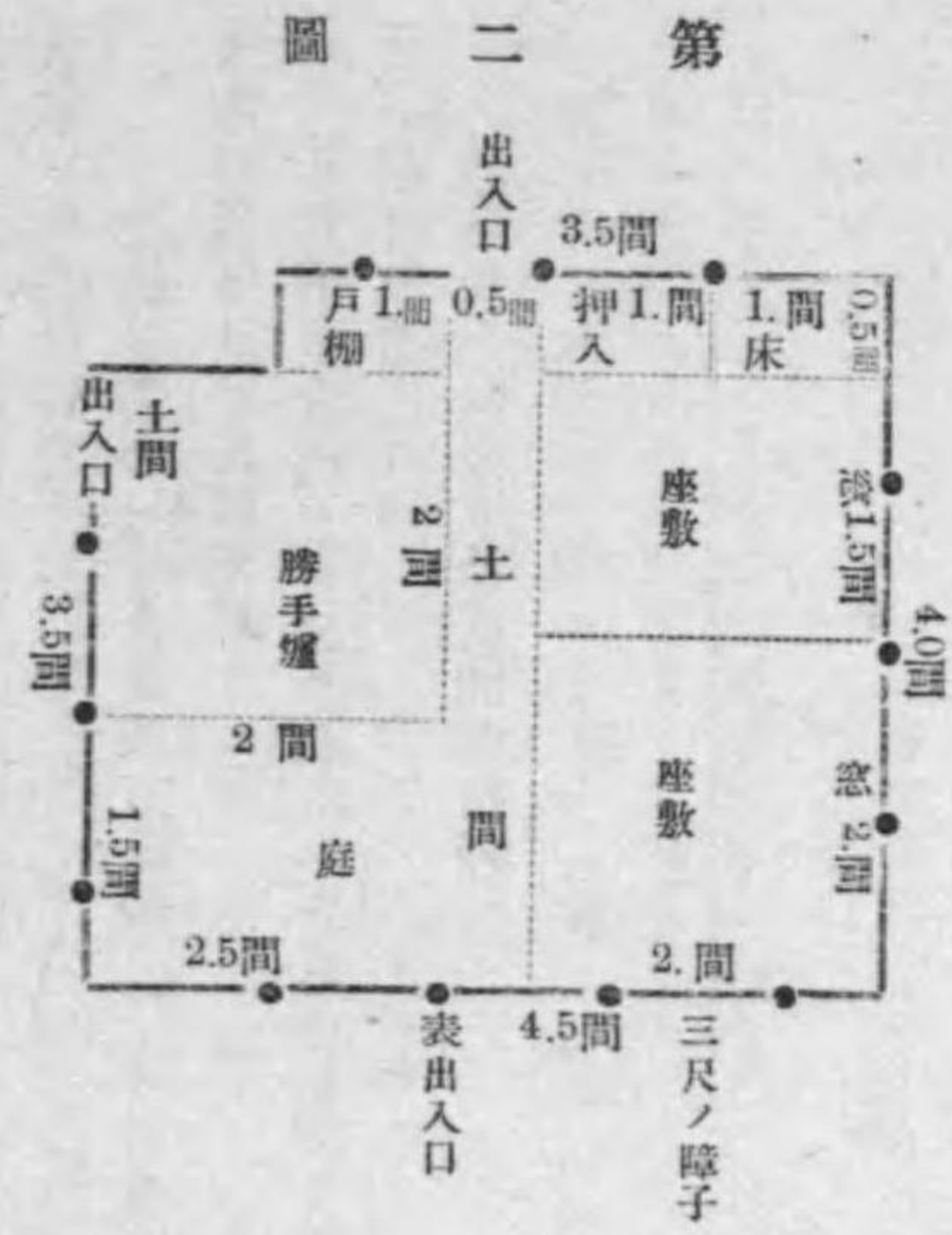
建築費合計金九拾貳圓五拾錢

第一設計



第二設計

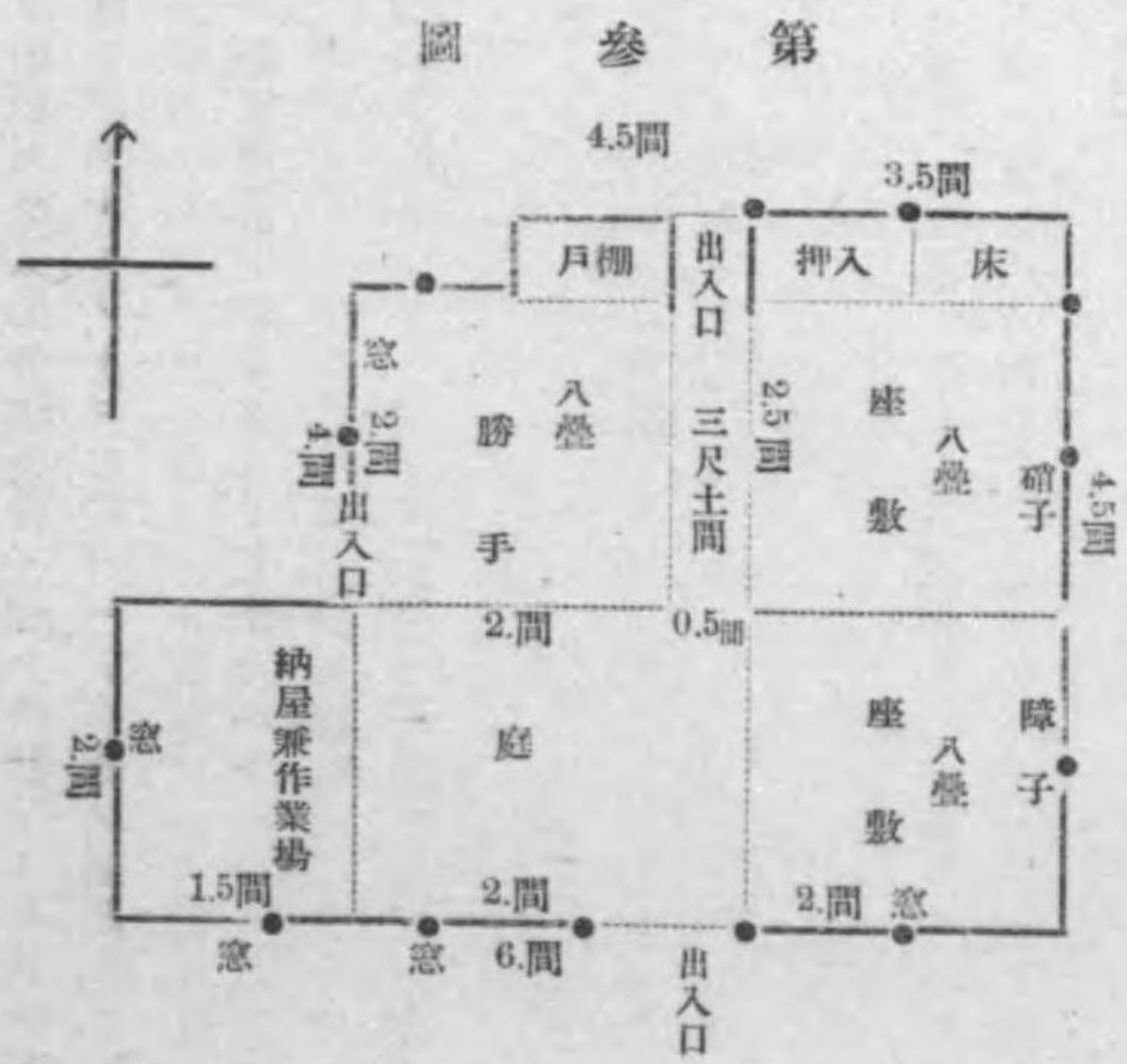
本家ノ坪數十五坪七合五勺
 壹坪ニ付建築費金八圓 小計金百貳拾六圓也
 本家附屬下ロシ坪數一坪七合五勺
 壹坪ニ付建築費金六圓 小計金拾圓五拾錢
 總坪數十七坪五合
 建築費合計金百參拾六圓五拾錢



圖二第

第參設計

本家ノ坪數拾八坪
 建築費壹坪ニ付金九圓 小計金百六拾貳圓
 本家下ロシ壹坪七合五勺
 建築費壹坪ニ付金七圓 小計金拾貳圓貳拾五錢
 本家下ロシ納屋兼作業場參坪
 建築費壹坪ニ付金五圓 小計金拾五圓
 總坪數二十二坪七合五勺
 建築費合計金百八拾九圓二拾五錢



圖參第

第四設計

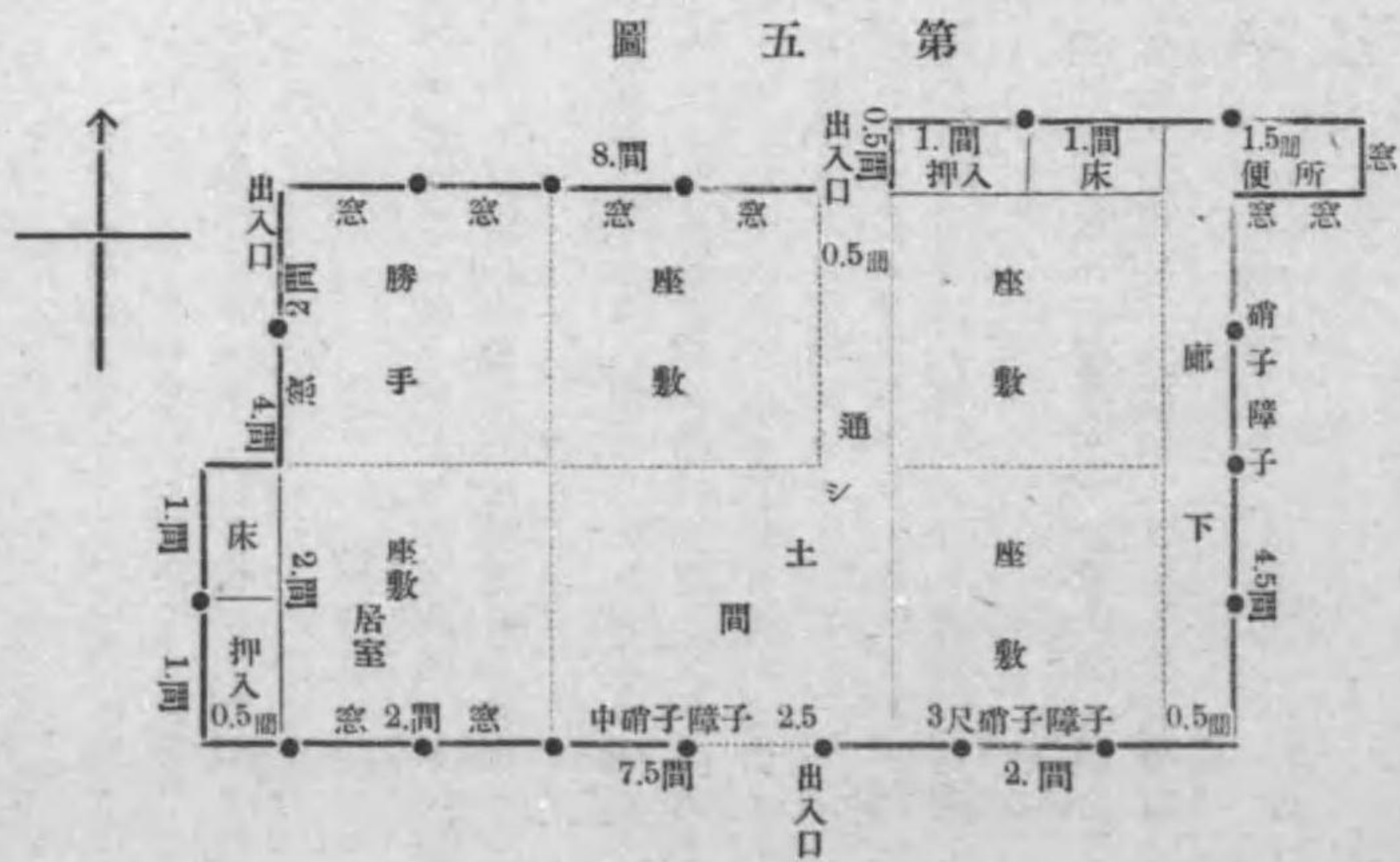
本家坪數二十七坪
 建築費一坪ニ付金拾圓 計金貳百七拾圓



圖四第

第五設計

本家坪數三十坪七合五勺
 建築費一坪ニ付金拾貳圓 計金參百六拾九圓



圖五第

(4) 農家々屋改良ニ關スル施設
 木材ニ富メル地方ハ勿論然ラサル地方ニテモ住宅ハ可及的厚壁トシテ堅固ノモノヲ築設スルハ甚タ經濟的ノコトナリトス
 即チ一ハ修繕費ノ節約トナリ二ハ天然陽光ヲ利用スルノ結構トナリ三ハ薪炭費ヲ節約スルヲ得ヘシ而シテ住宅建築ノ爲
 メ其地方有志者間ニ於テ住宅建築組合ヲ設ケ例ヘハ十ヶ年出資トシ融金額ヲ以テ毎年一二棟ツ、ノ新築ヲ行フ方法ヲ講ス
 ルカ如キ又ハ農屋建築ノ目的ヲ以テ官林ヨリ材料ノ拂下ヲ受ケル場合ニ證明アルモノニ限り價格ノ割引ヲ行フ保證法ノ如
 キ甚タ適切ニシテ必要ノモノナルヘシ

(三) 其他ノ農家經濟上進策

- (1) 衣服費 時代ノ進歩ト共ニ衣服費ノ漸次増進スルハ疑フヘカラス而シテ衣類ノ價格モ年々騰貴スルヲ以テ農家ハ冬期副業トシテ機械ニ從事スルトキハ衣服費ハ大略從來ノ半額ヲ以テ充タスヲ得ヘシ但シ勿論經營シテ有利ナルヘキ地方ニ限リ實行スヘキ限地的ノモノタルハ論ヲ俟タサルナリ
- (2) 薪炭費 薪炭ハ事情ノ許ス限り可成五町歩位ノ山地ヲ獲得シテ存林スルカ又ハ植樹ヲナシ之レカ所産ニヨリ薪炭自足ノ方針ヲ採ラサルヘカラサルナリ之ニ加フルニ前記ノ家屋改築等ニヨリテ薪炭消耗ノ節約ヲ圖ラサルヘカラス
- (3) 娯樂費 現在農村ニ適當ナル娯樂機關ヲ欠クノ結果清興ニ趣クモノ尠ク飲酒其他ニ無效有害ノ支出ヲナス金額決シテ少額ト言フヘカラス農家ニアリテハ宜シク此種無用ノ失費ヲ絕對ニ排除スルノ要アルヘシ
- (4) 交際費 冠婚葬祭ノ贈答慣習ハ我邦唯一ノ相互救済ノ不文制度ニシテ甚タ欣フヘキコトナリト雖モ輒近虛榮ニ走ルノ傾向アリテ其費率倍々増大セントス茲ニ於テ一村協議ヲ遂ケ能フ限り精神の贈答ニ重キヲ置キ物質的負擔ヲ輕減スルニ努ムヘキコトハ最モ肝要ノコトニ屬ス
- (5) 購買組合ノ利用 農家需用品ノ購入方法トシテ農村ニ或ハ産業組合ニ依ル購買組合ヲ設立シ或ハ組合法ニ依ラサル團體ヲ組織シ以テ農具肥料其他ノ生産上ノ需用品ヲ始メトシ日常生活上ノ需用品ノ共同購入ヲナシ實質豐富ナル佳良物資ノ廉價獲得ヲ圖ルノ方針ヲ講スルコト最モ緊要ノコトニ屬セリ

農業労働者

一、農業労働者ノ種類及數

本道ニ於ケル農業労働者ノ種類及數ヲ舉クレハ左ノ如シ

支 別	年 別	定 期	日 雇	計
札幌	三二四	五八六	一五九三	二四九三
空知	五四二	一三五五	四三六五	六二六〇
川内	八九四	二四〇九	六八二八	一〇一三一
志山	六〇三	四五〇〇	三三三九	二七四九
後志	一九七	三三四	一、一四	一、五四五
釧路	二二九	四七二	一、三六〇	二、〇六一
函館	四九〇	七六三	二、三九〇	三、五六六
室蘭	二六四	一、七五	二、四四二	三、八八一
浦河	四九八	六八一	一、八五二	三、〇〇一
河川	六七	二八一	二二七	五八五
根室	一	一	五八	五八
網走	三三二	一、四七五	七、七〇九	九、五二五
宗谷	四四五	八五	二七七	四〇七
増毛	一三三	四三三	六〇九六	六、六三三
合 計	四、二八三	一三、八七一	五七、〇〇六	七五、一六〇

備考 本表ハ一ヶ年ノ内僅カニ數日間農業労働ニ從事セシモノモ計算セルヲ以テ實際ノ農事労働者ヨリ其數多シ然シ
 ナカラ他ニ適當ナル統計ヲ欠クヲ以テ茲ニ之ヲ掲ケテ參考ニ供セリ

本道農業界ニ於ケル農業労働者ノ關係ヲ見ルニ本道農業ノ現狀ニテハ大農ト稱スヘキモノ少ナク又中農以下ニアリテモ其
 自家勞力ヲ限度トシテ營農シ成ル可ク他ヨリ労働者ヲ傭入セサルノ方針ヲ執ルヲ常例トスルヲ以テ從ツテ農業労働者ヲ需
 要スルコト少ナシ蓋シ土地廣ク人口稀薄ナル本道ニアリテハ農業労働者ニ甘んズルモノナカルヘキハ理數ノ當然ナリトス
 農業労働者ノ種類中最モ多キハ日雇ニシテ定期雇之ニ次キ年雇最モ少ナク其總數ヨリスレハ農業労働者ノ多キ地方ハ比較
 農業労働者

の大農ヲ多ク有スルカ或ハ廣ク水田作ヲナス地方ナルカ或ハ特有作物ヲ多分ニ栽培スル地方ニシテ後志、上川、網走、増毛空知各支應管内ノ如キ則チ其實例ナリ

二、年齢及性

男女共ニ凡ソ十七歳乃至五十歳ヲ普通トシ就中二十歳ヨリ四十歳迄ノモノ多キヲ占ム時ニ六十歳以上ノ高齢者ナキニアラサルモ異例トスヘシ
性ハ一般ニ女多シ是レ五町歩乃至十町歩ヲ經營スル農家ハ勿論其以上ノ農家ニアリテモ農耕作業ニ女ノ勞力ヲ要スルモノ多ク且ツ其勞力工程ハ仕事ニ依リテハ男ニ比シ多ク劣ラサルニ拘ラス其賃金ハ比較的低廉ニシテ雇主ノ利益多キヲ以テナリ

三、專業労働者ト兼業労働者

專業労働者ノ數ハ兼業労働者ニ比シテ尠ク後者ノ多クハ自作或ハ小作ノ傍他人ノ労働ニ従事スルモノニシテ農作繁忙ノ時期即チ播種收穫ノ時期ニ際シ雇入レラル、モノトス

四、單獨者ト非單獨者

年雇ハ單獨者多ク定期雇日雇ニ單獨者尠シ非單獨者ニシテ同時ニ同一事業ニ共稼キスルモノ尠ナカラス

五、農業労働者ノ給源

- (一) 地味不良地ニ於ケル小農ノ出稼 特ニ地味不良ナル泥炭地或ハ火山灰地等ニ五町歩位ノ小地積ヲ自作或ハ小作シ到底糊口ニ要スル收入ヲ舉クルヲ得サルヲ以テ附近農家ニ雇ハレ賃銀ヲ以テ主要ナル收入トナシツ、アルモノ
- (二) 地味普通ナルモ耕作地積過少ノモノ、出稼 地方ノ状態ニ依リ人口ノ割合ニ地積狭小ニシテ充分ナル耕地ノ獲得ニ困難ナルカ爲メ前項同様ノ状況ニアルモノ
- (三) 耕作物ノ種類ニ依リ小農ノ閑時利用ノタメ出稼 例ヘハ水田及畑地ヲ兼有スル農村ニアリテハ兩種耕作間ニ互ニ勞働ヲ交替スルヲ便トス即チ畑作者ニアリテハ藁藁收穫ノ繁忙ナルトキハ稻田作者ニハ閑時ナルヲ以テ之カ勞働ニ従事シ又秋期收穫繁忙ノ際ハ夏作物ヲ多ク栽培スル農家出テ、之ヲ助クルカ如キ又ハ水田移植時期ニハ畑作者カ勞役ヲ供給スルノ類是ナリ

(四) 新來移民ノ労働 新來移民ニシテ渡道後日尙淺ク諸般ノ狀況不案内ニシテ且ツ資力ニ乏シキモノハ農業労働者トシテ農家ニ雇ハル、モノ尠カラス

(五) 渡道後長キニ亘ルモ尙土地ヲ獲得セサルモノ 渡道後長歲月ニ亘ルモ種々ノ事情ニ依リ小作地自作地共ニ未タ獲得スルニ至ラス或ハ一旦獲得シタルモ其權利ヲ失ヒタルカ爲メ他人ノ農場ノ労働ニ従事スルモノ

(六) 一般労働者ニシテ農業労働ニモ従フモノ 普通労働者ニシテ農期ニ至リ農業労働ニ従事シ又植夫、漁夫、工場職工、坑夫等ニシテ或期間本業ノ餘力ヲ農業労働ニ充ツルモノ尠カラス

(七) 農家子弟ノ單獨者 農家子弟ノ單獨者ハ將來企業ノ資本ヲ獲得スル目的ヲ以テ特ニ他農家ノ年雇トナリ或ハ定期雇トナルモノ不尠又ハ子女多クシテ耕作地ノ之レニ伴ハサル小農家ノ如キハ往々生計關係上ヨリ其子女ヲ他農家ノ年雇定期雇等トナスコト稀ナリトセス

以上一乃至七種ノ給源ノ内(一)地味不良地ニ於ケル小農ノ出稼(二)地味普通ナルモ耕作地過少ノモノ、労働者ハ本道農業労働者中ノ主要部分ヲ占ムルモノニシテ其他ノ給源ハ地方的現象ニ過キサルモノトス但シ労働者中年雇ニアリテハ主トシテ(七)農家子弟ノ單獨者(四)新來移民(五)渡道後久シキニ亘ルモ土地ヲ獲得セサルモノニ多ク之ヲ見ルモノ如シ

六、賃銀

(一) 額

賃銀ハ種々ナル事情ニ基キ其額ニ差異アリ

(1) 仕事別

地方ニヨリ多少ノ差異アルモノ一般ニ仕事別ニ依ル一日ノ賃銀ヲ掲クレハ左ノ如シ

仕事別	性	最高	最低	普通
耕 勸	男	七五〇	四二〇	六四〇
	女	五五〇	三二〇	四六〇
施肥	男	八五〇	四二〇	六四〇
	女	六五〇	三二〇	四六〇
作物收穫	男	七五〇	四二〇	六四〇
	女	五五〇	三二〇	四六〇
冬作物收穫	男	七五〇	四二〇	六四〇
	女	五五〇	三二〇	四六〇

請負

仕事別	最高	最低	普通	摘	要					
						(2) 性別				
						男		女		平均
水稲	1.200	800	1.000	苗取りハ雇主ニ於テ行フモノトシ一反歩ニ對スル貸銀ヲ示ス						
水稲	1.500	700	1.100	苗取り立掛ケマテ一反歩ニ對スル貸銀						
燕麥	850	500	700	一反歩ニ對スル貸銀						
牧草	500	300	400	苗放シニテ一反歩分ノ貸銀						
馬糞	1.000	500	700	ブラオニテ耕起シ縦横二回ハロイヲ施コスモノニシテ一反歩分ノ貸銀						
泥炭	2.500	1.800	2.000	土質及樹木發生ノ程度ニヨリテ其貸銀ニ差異ヲ生スベクブラオ起期ノミニ						
普通	7000	2.500	3.000	テハロイ掛ナ行ハザル所謂起放ト稱スルモノ一反歩分						
溝渠	1.500	1.000	1.200	溝渠ノ開鑿ハ土質及樹木發生程度ニヨリテ其貸銀ニ差異ヲ生ズベク泥炭地ニ						

労働者ノ賃銀ハ農作物節節及地方狀態ニ依リ異ナルモ其異ナル度合ハ男子ヨリ女子ニ於テ大ナリ女子ノ賃銀ハ田舎ノ農業地ニ於テハ都會附近ノ園藝地ニ比シ常ニ高率ナル傾アリ

(3) 年齢別
 年齢ニ依リテ賃銀ノ上ニ多大ノ差等ヲ附スル習慣尠キモ男女共凡十七歳以下ノモノハ普通賃銀ヨリ五錢乃至十錢低廉ナリ

然レトモ一般ニ雇主ニ於テ此種ノ労働者ヲ嫌ヒ避クルノ傾キアリ

(4) 契約期限別
 契約期限別即チ年雇、定期及ヒ日雇ノ種類ニ依リ賃銀ニ差等アルモ定期雇ハ日雇ト大差ナキヲ以テ今日雇及ヒ年雇(作男)ノ地方別賃銀ヲ示セハ左ノ如シ

支那	年	日	雇
上	女男	女男	四七〇〇〇
空	女男	女男	三三〇〇〇
札	女男	女男	三三〇〇〇
	女男	女男	三三〇〇〇

後	前	節	別	年	日	雇
志	志	志	志	志	志	志
山	山	山	山	山	山	山
館	館	館	館	館	館	館
蘭	蘭	蘭	蘭	蘭	蘭	蘭
河	河	河	河	河	河	河
西	西	西	西	西	西	西
路	路	路	路	路	路	路
室	室	室	室	室	室	室
走	走	走	走	走	走	走
谷	谷	谷	谷	谷	谷	谷
毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛
宗	宗	宗	宗	宗	宗	宗
綱	綱	綱	綱	綱	綱	綱
根	根	根	根	根	根	根
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
室	室	室	室	室	室	室
浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦
河	河	河	河	河	河	河
浦	浦	浦	浦	浦</		

時ニ收穫時期ノ刈取作業及苹果袋掛等ニ見ルモ稀有ノ場合ニシテ言フニ足ラス常雇ニ對スル仕拂方法ハ區々ニシテ一定セサルモ大凡三種アルモノ、如シ一ハ其雇人ノ人格ヲ信シテ年初ニ全額ノ前拂ヲナスモノ一ハ全年ヲ三四期ニ等分シテ仕拂フモノ一ハ夏作秋作ノ二期ニ區別シ各收穫後ニ仕拂ヲナスモノ之ナリ

七、労働日數及時間

專業労働者ノ労働日數ハ雨天、病氣、其他ノ事故、祭典、盆、正月其他ノ休息日數ヲ除キ一ヶ月約二十日乃至二十五日ニ亘リ一日ノ労働時間ハ平均約九時間ニシテ夏期ハ九時間乃至十時間春秋ハ八時間ナリトス而シテ上記九時間ハ正午約一時間及午前午後ニ於ケル中休ミ平均十五分ヲ除キタル純労働時間數ナリ

八、雇入期節

雇入期節農業労働者ノ需要最モ多キ期節ハ六月中旬ヨリ下旬、八月中旬乃至九月中旬ニシテ需要ノ最モ少キ時節ハ十一月上旬ヨリ四月上旬ニ至ル間トス

九、雇入方法及雇入ノ難易

雇入方法ハ直接雇入レ及労働者相互ノ周旋最モ多ク漁夫雇入ノ如ク府縣ニ出張シテ之レヲ募集スルモノハ殆ントナク又周旋業者ノ手ヲ經ルモノモ少シ現今本道ニハ未タ農業労働者ノ専門的周旋業者ナク何レモ一般ノ周旋業者之レヲ兼營シ其數空知支應十一、上川支應二十二、後志支應四、檜山支應五、函館支應六、河西支應七、根室支應二、増毛支應六、合計六十三アリ地方ニヨリ多少ノ慣行ヲ異ニスルモ年雇ヲ周旋スル場合ニハ五十錢乃至一圓ノ手数料ヲ労働者ヨリ徴シ又時トシテハ同額ノ手数料ヲ雇主ヨリ徴スルコトアリ日雇ニ對シテハ一日ニ二錢ノ手数料ヲ徴スルヲ普通トス而シテ一般ニ本道ニ於テハ農業労働者ヲ雇入ル、ハ容易ナラス殊ニ新開地ニ於テ然リトス

十、農業期節以外ニ於ケル農業労働者ノ仕事

常雇以外ノ労働者ノ業務ハ雜駁ニシテ殆ント律スヘカラサルモノアリ常雇者ニアリテハ各期間雇主所要ノ薪切り運搬ニ從事シ又下肥蒐集既運搬其他ノ雜用務ニ服シテ閑時ナシ女ハ右ノ外裁縫其他家事ノ補助ヲナスモ要スルニ男ニ比シ女ニ適切ナル事業ヲ欠ケリ爾今適當ノ副業振作ト共ニ此餘剩勞力利用ノ必要アリ

十一、農業労働者ノ生活状態

農業労働者ノ生活状態ハ其種類ニ依リ異ナレリ今之ヲ比較スルニ左ノ如シ

- (一) 作男 食料ハ雇主ヨリ給セラレ衣服ハ自辨ノコトアリ又盆、正月ノ如キ時期ニ多少ノ心付ヲ受クルモノアリ雇主ノ宅ニ同居スルヲ以テ其生活程度ハ雇主ノ生活状態ニ準スヘク食料衣服共ニ敢テ劣等ト言フヲ得サルナリ
- (二) 地味不良地ニ於ケル小農ノ出稼 地味不良地ニ農業ヲ經營シ充分ノ收入ヲ擧ゲ得サルカ爲メノ出稼ナルヲ以テ一般ニ生計ニ餘裕ナク普通農家ニ比シ衣食住共ニ劣レリ
- (三) 普通地味ノ地方ニテ耕作地積狭少ナル爲メ小農ノ出稼 前者ト同斷ナリ
- (四) 耕作物種類ニ依リ閑時利用ノ爲メ小農ノ出稼 普通地ニ於テ農業ヲ經營シ普通ノ收入ヲ得ルノ外出稼賃銀ナル餘分ノ收入アルヲ以テ衣食住共ニ優リ生活状態稍豊カナリ
- (五) 新來移民ノ労働 新來移民ニシテ農業労働ニ從來スルモノハ所持金貧弱ニシテ生活状態甚タ劣レルモノ多シ
- (六) 渡道後長日月ニ亘ルモ土地ヲ獲得セサルモノ、労働者 此種類ニ入ルヘキモノニ三種アリ一ハ放逸ノ結果自暴自棄セルモノ一ハ天災地妖ニ遭ヒ又ハ家族ノ數多クシテ家計困難ノ結果所有地又ハ小作權ヲ喪失シタルモノ一ハ其他ノ事情ニ因リ土地ノ獲得ヲナシ能ハサルモノニシテ共ニ生活状態大ニ劣レルモノトス
- (七) 一般労働者ニシテ農業労働ヲナスモノ 其生活状態ハ種々雜多ニシテ一定セサルモノ一般ヨリ言ヘハ賃銀ハ酒食ニ浪費シテ更ニ將來ヲ顧念セサルモノ多シ

十二、農業労働者供給方法

本道ニ於テ農業労働者雇入ノ困難ナル理由三アリ一ハ本道農業労働者ノ數尠キコト二ハ農業労働者ノ需要ハ礦山業若クハ工業等ト異ナリ年中平等ナラス農業期節ト一致スルヲ以テ一年中某時期ニ限リ一時ニ多數労働者ヲ需要スルヲ以テ雇入困難ナルコト三ハ農業其モノ、薄利事業ナルノ結果高キ賃銀ノ仕拂ニ堪エサルコト之ナリ而カモ本道農村ニ農業労働者ヲ適當ニ供給シ企業者ヲシテ之カ雇入ニ容易ナラシムルコトハ農業發展ノ策トシテ其必要ヲ認メサルヲ得ス或ハ其法ノ一トシテ道内又ハ府縣ノ漁民ヲ農村ニ移入スルノ便宜ヲ唱フルモノアルモ漁民ノ特性ハ農民ト其趣ヲ異ニスルモノアルヲ以テ從來ノ實例ニ徴スレハ純朴ナル農村ニ惡感化ヲ與フル等多クハ甚不成績ナルヲ證セルヲ以テ此法タル決シテ良全ノ策トナスヘカラス或ハ其農場内ニ普通ヨリ少地積ノ貸地ヲナシ小作農ヲ經營セシムル傍ラ其餘剩勞力ヲ農場ニ提供セシムルノ策ヲ講スルモノアリ此ノ法多クハ良成績ナルヲ以テ爾今之カ獎勵ヲナスニ値スヘシ而シテ其最モ良法ト認ムヘキモノハ各地

方ニ於ケル村農會カ其事業ノ一トシテ農業労働者ト其需要者トノ間ニ介在シ法規ノ許ス範圍内ニ於テ労働者需給ノ斡旋ヲ企畫スルコトニシテ蓋シ之レ供給法中ノ重視スヘキ施設ナリト云フヘシ

十二、農業労働者待遇法

本道未タ労働者待遇法ノ著例ナシ只水田地方ニ於テ雇入困難ノ結果移植時期等ニ酒其他ノ食品ヲ饗スルカ如キコトアリ又畑作地ニ於テモ大地積ヲ作付スル農家ニ於テ往々此習慣アリ其他注意深キ雇主ハ労働者ノ労働工程及勤怠ニ依リ賃金ノ歩増ヲ行フモノアリ又年雇ノ場合ニハ盆正月等ノ期節ニ雇主ヨリ衣服其他ノ心附ヲナスカ如キ之ナリ然レトモ今後農業労働者ニ對スル待遇ヲ改メ以テ労働ノ効果ヲ増進セシメント欲セハ現在行ハレツ、アル雇主ノ隨時的好意ノ外ニ更ニ其地方ノ事情ニヨリテ左ノ諸法ヲ撰ヒ實施スルコト肝要ナルヘシ

- (一) 賞與法 農業労働者勤怠ノ度合ヲ査定シ年末又ハ事業年度末ニ賞與トシテ金品ヲ與フルコト
- (二) 土地貸與法 家族アル年雇ニハ小面積ノ土地ヲ貸與シテ收入ヲ得ル途ヲ開クコト
- (三) 土地分與法 農業労働者ニシテ相當ノ年限精勵勤績セルモノニ對シ其功勞進表ノタメ土地若干ヲ分與スルコト
- (四) 資金融通法 前者ノ場合ノ労働者カ解雇後獨立シテ農業經營ヲナス場合ニハ必要ナル資金ヲ低利若シクハ無利子ニテ貸付スルコト

大正四年三月二十八日印刷
大正四年三月三十一日發行

北海道廳

印刷者 札幌區北一條西三丁目二番地
山 中 國 松

印刷所 札幌區北一條西三丁目二番地
文 榮 堂 活 版 所

終